

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)

第3回 計画段階評価資料

平成28年2月26日

国土交通省 北海道開発局

本日、ご議論いただきたい内容

- 第2回地域意見聴取の概要
- 地域意見を踏まえた対応方針(案)

1. 第2回地域意見聴取の概要

1-1) 第2回地域意見聴取の概要

○第2回地域意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

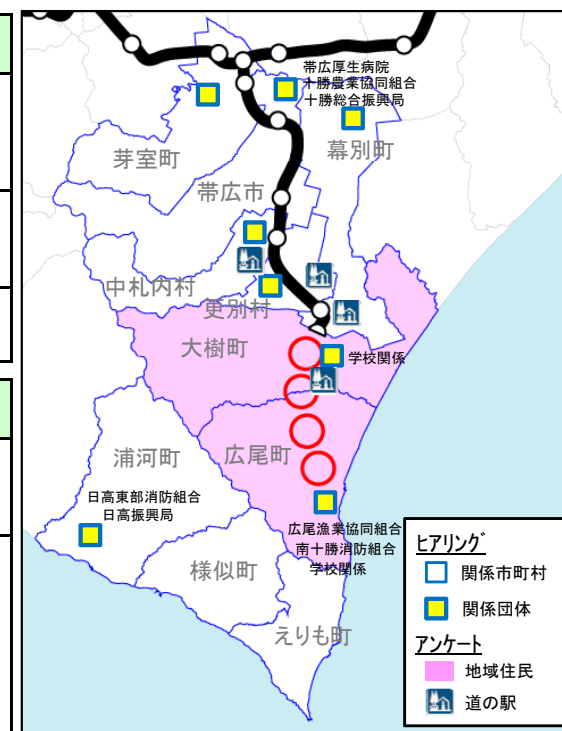
■意見聴取期間 平成27年10月16日(金)～11月8日(日)

■意見聴取の対象

アンケート調査					
住民・道路利用者	配布	郵送全戸配布、郵送回収	大樹町	約2,600世帯	合計 約6,000世帯
			広尾町	約3,400世帯	
	留置き	道の駅へ調査票を常設、郵送または投函箱による回収	国道236号、336号沿線の道の駅(中札内、更別、忠類、大樹)	4箇所 各100部	合計 400部
			Web	Web(HP)上で回答	一般の意見を聴取

ヒアリング調査				
沿線自治体等			十勝総合振興局、日高振興局、帯広市、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町、浦河町、様似町、えりも町	合計 12団体
関係団体	産業 団体	商工会議所 商工会	帯広商工会議所、芽室町商工会、中札内村商工会、更別村商工会、幕別町商工会、大樹町商工会、広尾町商工会、浦河町商工会	合計 15団体
		観光関連	北海道十勝観光連盟	
		輸送関連	北海道バス協会、十勝地区バス協会、北海道トラック協会、十勝地区トラック協会	
		農水産業関連	北海道農業協同組合帯広支所、広尾漁業協同組合	
	消防 ・医療	消防組合	南十勝消防組合、日高東部消防組合	合計 3団体
		病院	帯広厚生病院（第三次医療施設）	
	教育 機関	教育委員会	大樹教育委員会、広尾町教育委員会	合計 9団体
		学校	大樹高等学校、広尾高等学校、大樹中学校	
		保育園・保育所	大樹南保育園、大樹北保育園、広尾保育所、丸山保育所	

■意見聴取対象地域



1-2) 地域意見聴取の実施状況(アンケート調査)

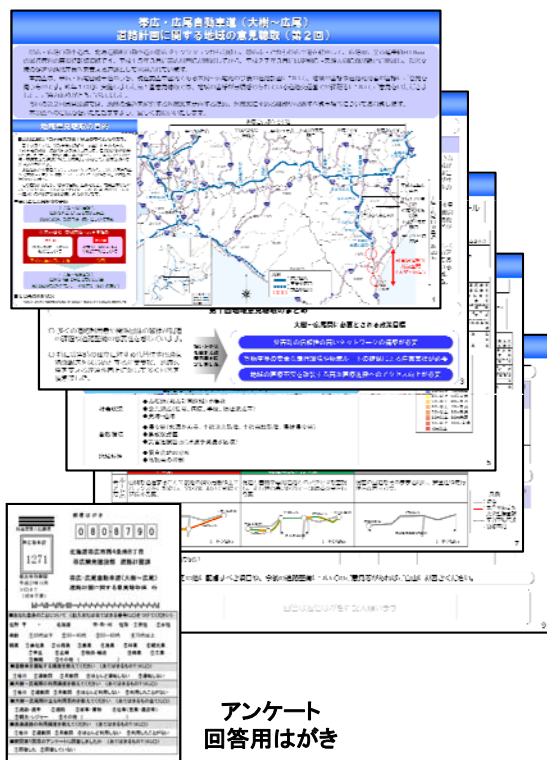
○地域住民・道路利用者に対して、対応方針(案)の検討にあたって政策目標の重視度と整備にあたって配慮を必要とする事項について、アンケート調査を実施。

■意見聴取内容

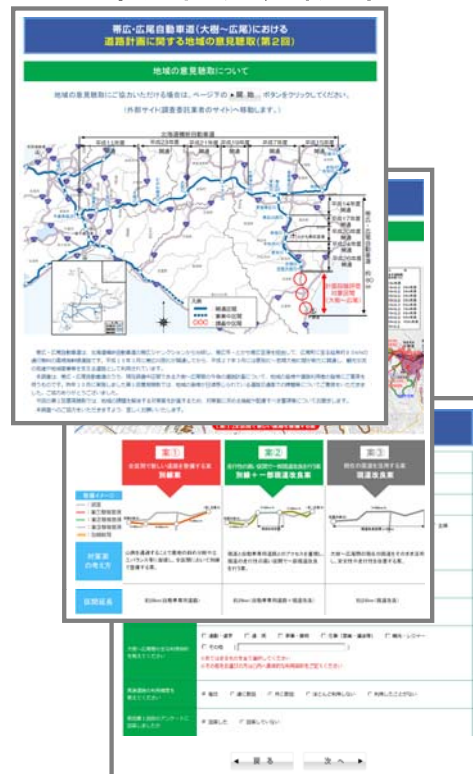
回答者属性（住所、性別、年齢、職業、自動車運転頻度、大樹～広尾間の利用頻度・利用目的、高速道路の利用頻度、前回第1回アンケートへの回答の有無）

- 問1 対策案の比較にあたって、設定した政策目標をどの程度、重視すべきと思いますか？
- 問2 また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？
- 問3 その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればご自由にお書きください。

■配布調査票



■Web(帯広開発建設部HP)



■自治体広報掲載



■道の駅調査実施状況



1-3) 地域意見聴取の実施状況(ヒアリング調査)

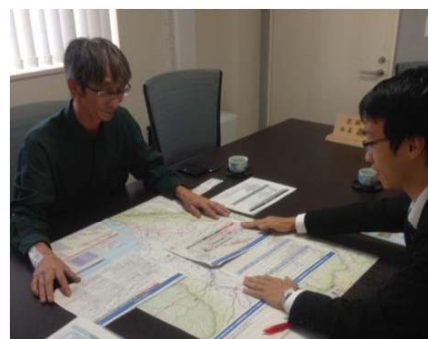
- 沿線自治体・関係団体に対して、同様にヒアリング調査を実施。
- 大樹広尾間が新たに整備された場合の将来の利活用方法や地域連携の取り組みについても意見を聴取。

■意見聴取内容

- 問1 対策案の比較にあたって、どのような項目を重視すべきと思いますか？
- 問2 また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？
- 問3 貴団体の総合計画や将来ビジョン等に照らし、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾）が新たに整備された場合、現在考えられている、利活用方法や地域間連携の取り組みがあればお聞かせ願います。
- 問4 その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればお聞かせ願います。

■実施状況

調査対象			実施状況
沿線自治体等			12
関係団体	産業 団体	商工会議所・商工会	15
		観光団体	
		輸送関連団体	
		農水産業関連団体	
	消防 ・医療	消防組合	3
		病院	
	教育 機関	教育委員会	9
		学校	
		保育園・保育所	
合計			39



(更別村商工会)



(十勝観光連盟)



(南十勝消防組合)



(大樹町保育園)

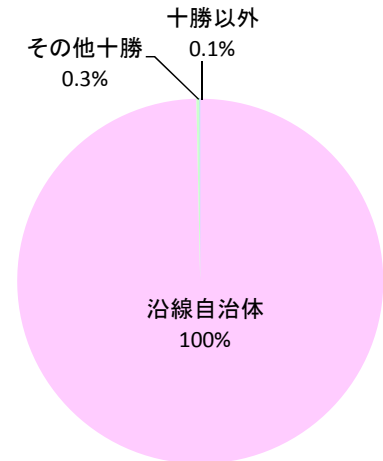
1-4) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回収状況・居住地)

○全回収数は1,851人で、配布形式1,756人、留置き59人、Web36人が回答。
○回答者の居住地は、沿線自治体(大樹町、広尾町)96%、その他の十勝管内市町村3%、十勝以外の道内・道外が1%。

▼調査票回収状況

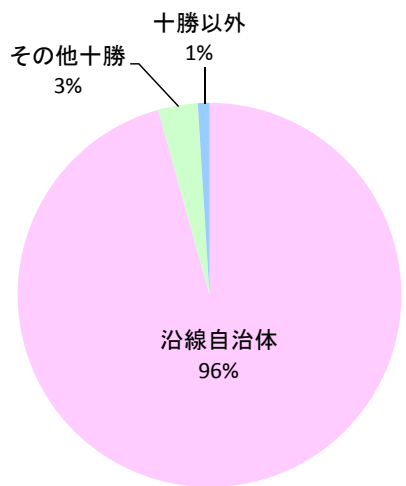
調査形式	配布数	回収数	回収率
配 布(沿線自治体)	5,923	1,756	29.6%
留置き(道の駅)	—	59	—
Web	—	36	—
合計	—	1,851	—

▼居住地(配布)



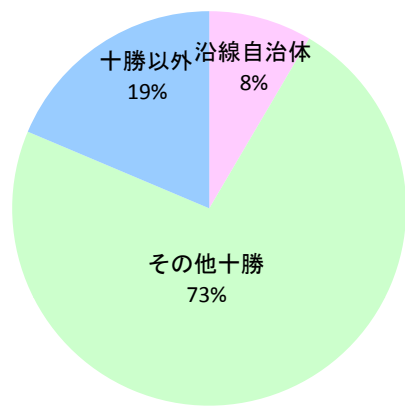
総回答者数 1,756人

▼回答者居住地



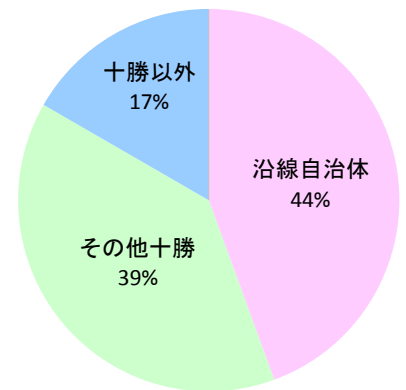
総回答者数 1,851人

▼居住地(留置き)



総回答者数 59人

▼居住地(Web)

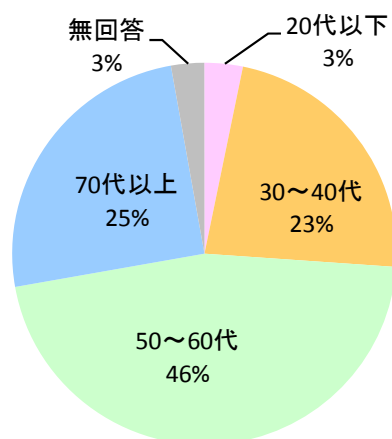


総回答者数 36人

1-5) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回答者属性)

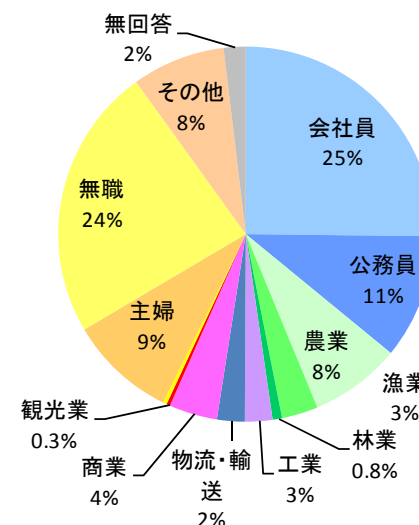
- 年齢構成は50代以上が7割以上を占め、また性別についても男性が7割以上と高く、若年層や女性からの回答割合が低い傾向。
- 職業については、有職者が約6割を占め、特に会社員、無職の回答割合が高い傾向。
- 前回第1回目のアンケートには、約6割が回答。

■ 年齢



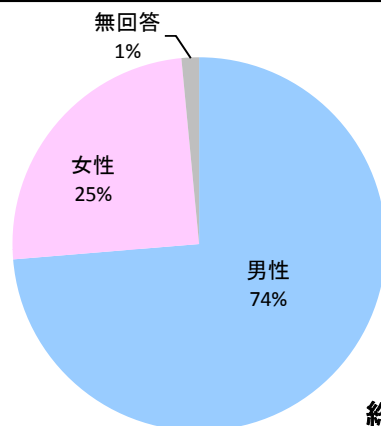
総回答者数 1,851人

■ 職業



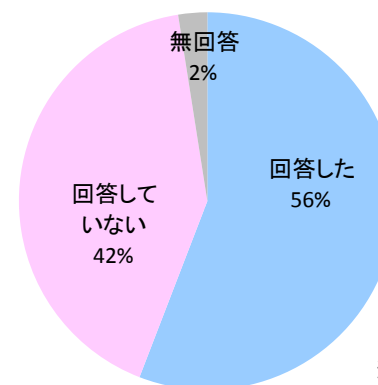
総回答者数 1,851人

■ 性別



総回答者数 1,851人

■ 前回第1回目のアンケートに回答しましたか(単数回答)

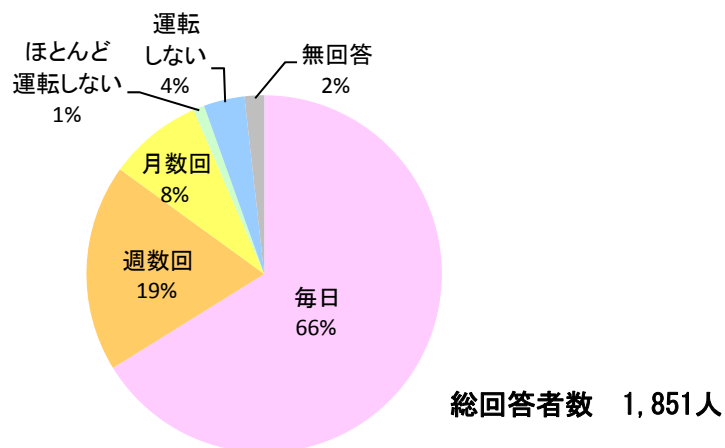


総回答者数 1,851人

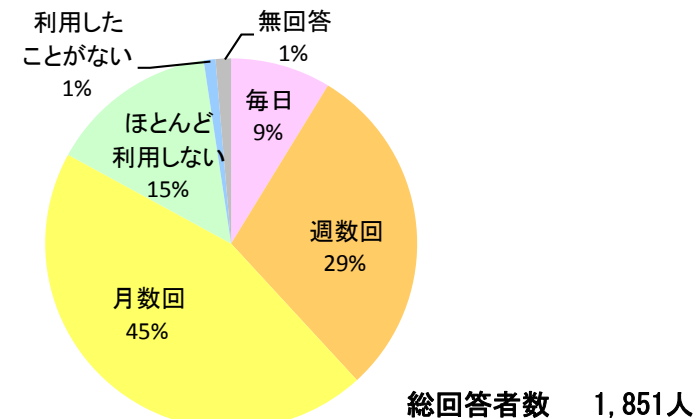
1-6) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度等)

- 自動車運転頻度は、回答者の約7割が毎日運転と回答。
- 大樹～広尾間の利用頻度は、毎日～月数回の高頻度利用者が約8割を占めている。
- 大樹～広尾間の利用目的は、家事・買い物、通院、仕事、観光・レジャーの順で多くなっている。
- 回答者の高速道路の利用頻度は、毎日～月数回が8割以上を占めている。

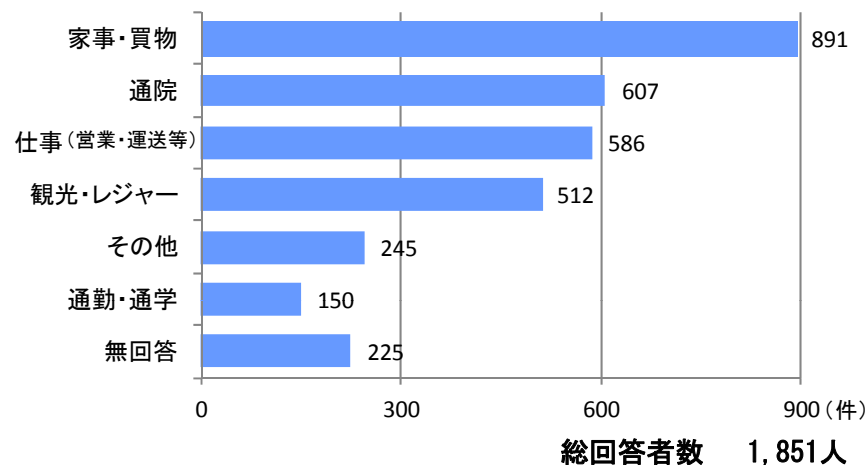
■ 自動車を運転する頻度を教えてください(単数回答)



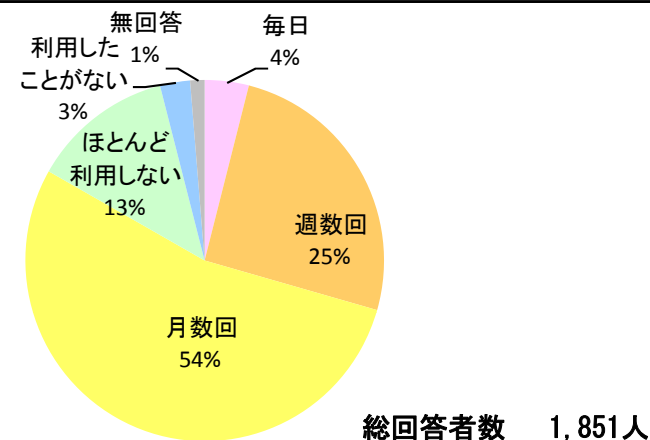
■ 大樹～広尾間の利用頻度を教えてください(単数回答)



■ 大樹～広尾間の主な利用目的を教えてください(複数回答)



■ 高速道路の利用頻度を教えてください(単数回答)



1-7) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(政策目標重視度)

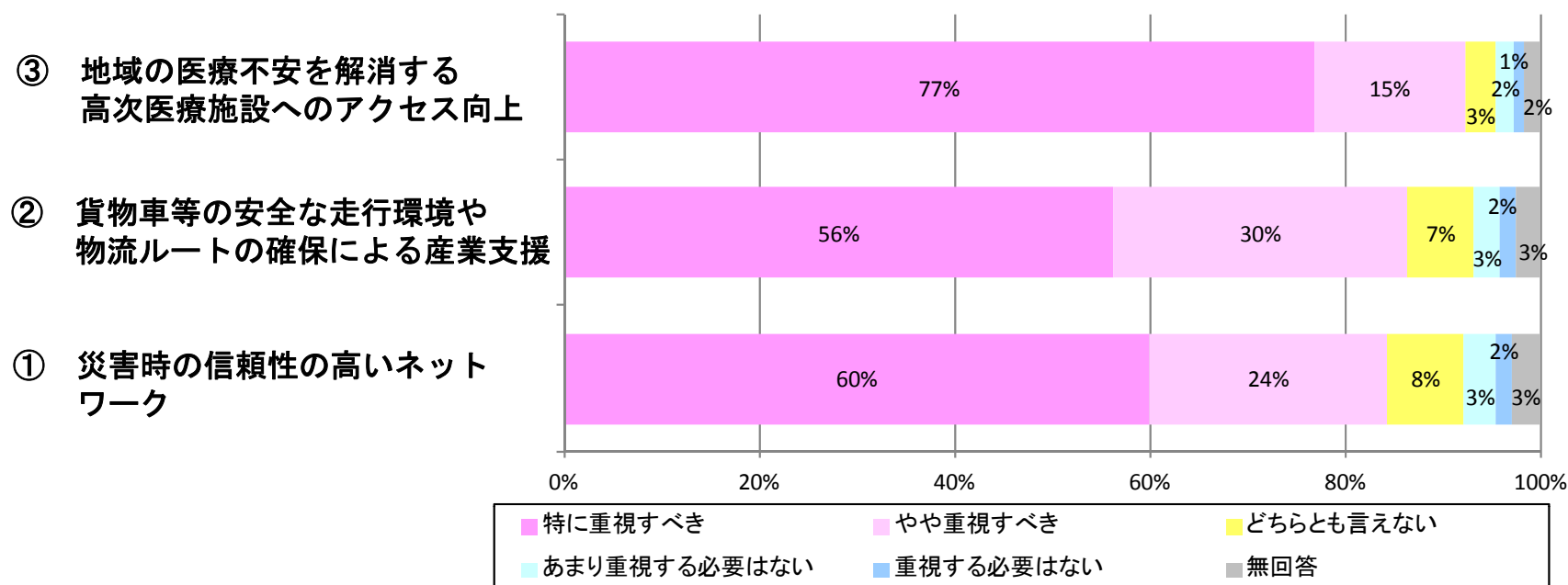
○対策案の比較にあたって、政策目標の重視度については、3つの項目に対し約8割以上が「特に重視すべき」「やや重視すべき」と回答。

○政策目標の中でも「高次医療施設への速達性」が、「特に重視すべき」の割合が高い結果。

■質問1. 対策案の比較にあたって、設定した政策目標をどの程度、重視すべきと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。(単数回答)

- ① 事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を有し、災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避できる道路
- ② 物流貨物車交通と生活交通の機能の分担により交通事故が減少し、安全・確実な産業を支援できる道路
- ③ 帯広市の医療施設などへの速達性や走行性の向上により、地域の医療不安を解消する道路



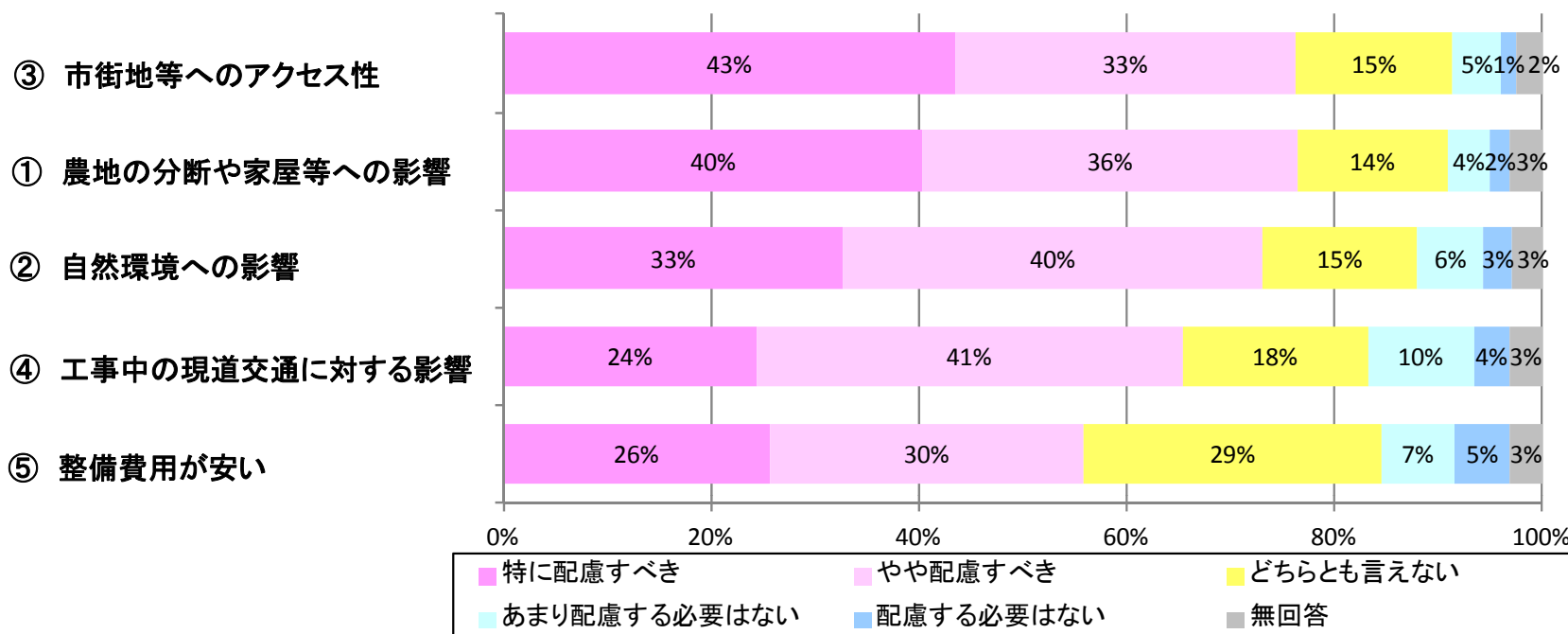
1-8) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(配慮すべき事項)

- 対策案の整備にあたって配慮を必要とする事項については、すべての項目に対し約6～8割が配慮すべきと感じている。
- 特に、「市街地等へのアクセス性」や「農地の分断や家屋等への影響」、「自然環境への影響」に配慮すべきと感じている意見が多い。

■質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。(単数回答)

- ① 農地の分断や家屋等への影響
- ② 自然環境への影響
- ③ 市街地等へのアクセス性
- ④ 工事中の現道交通に対する影響
- ⑤ 整備費用が安い

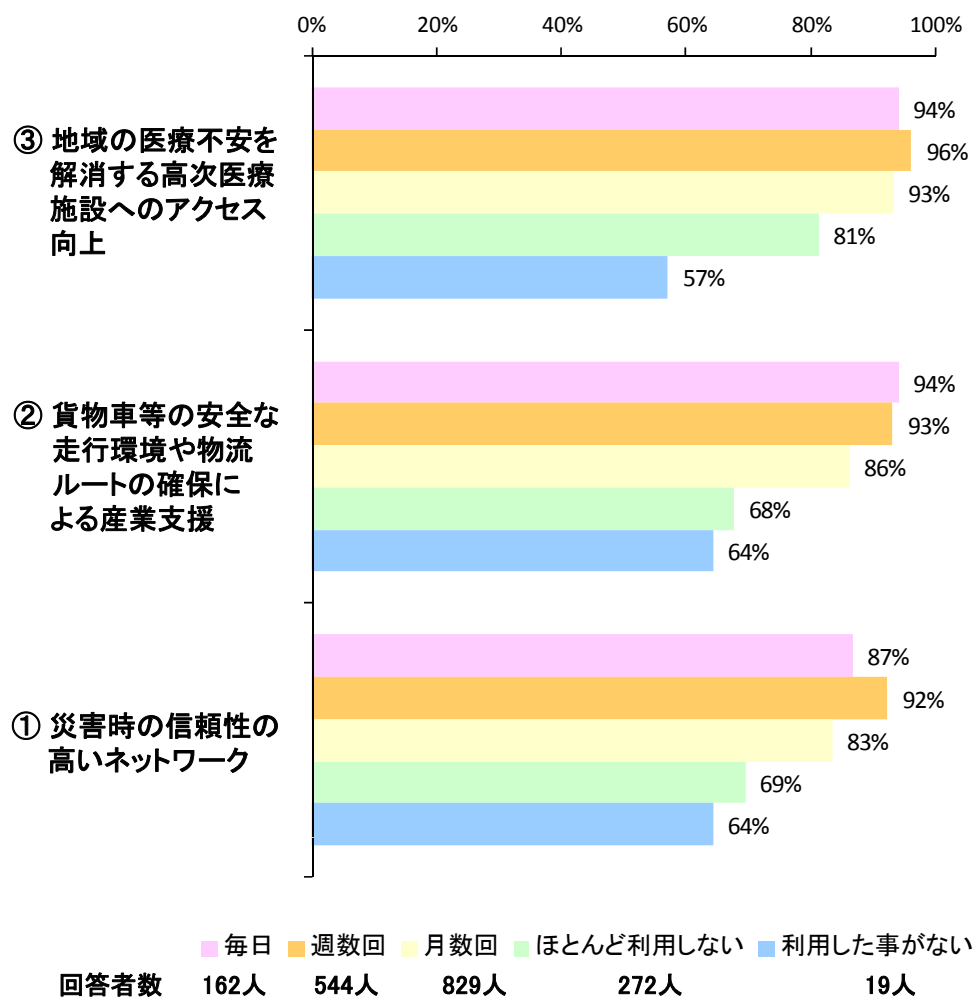


総回答者数 1,851人

- 大樹～広尾間の利用頻度別では、利用頻度が高い回答者ほど各政策目標を重視すべきという意見の割合が高い傾向。
- また、配慮すべき事項については、「整備費用が安い」以外の項目で、利用頻度が高い回答者ほど配慮すべきという意見の割合が高い傾向。

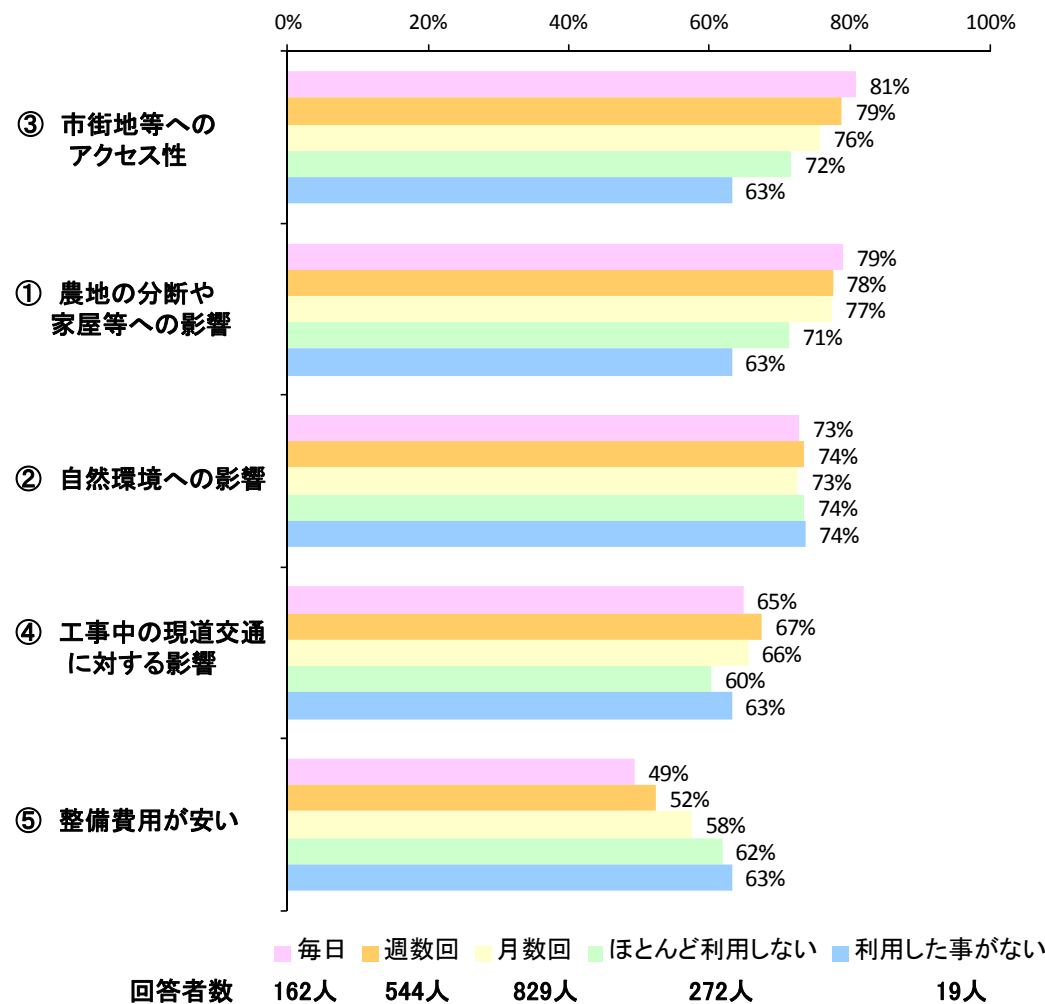
▼大樹～広尾間利用頻度別の政策目標への賛同意見割合

(「特に重視すべき」または「やや重視すべき」と回答した回答者の割合)



▼大樹～広尾間利用頻度別の賛同意見割合

(「特に配慮すべき」または「やや配慮すべき」と回答した回答者の割合)



1-10) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由回答:政策目標・配慮事項の補足)

- 自由回答は、「設定した政策目標」、「設定した配慮事項」、「その他」に関する意見の大きく3つに分類。
- 設定した政策目標に関しては、回答を補足する意見に加え、地域活性化等に関する意見が挙げられた。
- 設定した配慮事項に関しては、市街地・沿線集落へのアクセス性、整備費用の回答内容を補足する意見が多く挙げられた。

■質問3. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればご自由にお書き下さい。(自由記述)

	主な意見
設定した政策目標に関する意見	・有事の発生時緊急性が特に要求される。このような観点からも今までの念願である高規格道路の新線を特に求めます。 ・災害時の避難道路を複数確保すべき。 ・楽古橋が通行不可となった場合広尾町は陸の孤島となりうる恐れがあります。 ・十勝の産業が活性化されるのに道路は必要。TPP合意で世界と競争する事になるならばインフラ整備をきっちり行い足元を固める事が急がれていると思います。 ・産業用トラック(各港へ急ぐ速度の速い車輛、収穫物を運搬する速度の遅い車輛)と自家用車がストレスなく住み分けるにはある程度の2車線化か追越区間を設ける事。事故を軽減する工夫が必要かと思う。 ・鹿との衝突が特に多い区間であり、事故を減らすには開通済みの帯広広尾道と同じ規格で全区間を建設したほうがよい。 ・冬期間における雪害によっておこりえる事故及び玉突事故等について、十分考えてほしい。 ・急病になった時など帯広の病院に早く行くことができ、早期治療が出来るので早く来てほしい。 ・高齢化社会ゆえ高度医療を迅速に受けるべき。心筋梗塞、脳卒中、血栓等速く治療を受けられるようにしてほしい。 ・医療体制の充実した帯広市から距離のある町の住民にとって医療不安の解消は重大な課題です。 ・産業振興、観光などに欠かせない道路です。
設定した配慮事項に関する意見	・農地とかコストのかかる場所を避けて山林とか国有地を利用してコストのかからない方法でお願いします。 ・現在の自然環境を極力壊さないような案でお願いします。 ・一生に向けての道路整備なので今の国道からあまり離れず市街地へのアクセス整備されると良いです。 ・市街地から近い場所にICが必要。他の国道等にダイレクトにアクセス出来ればなお良いと思います。 ・日高東部地域へのアクセスも良くなるように実施されたい。 ・大樹・広尾間だけでなく、北海道全体を考え、日高方面とのアクセスも考えてほしい。 ・石坂や豊似は各ICからそんなに遠くないので広尾まで伸ばしてほしい。 ・新たな区間について整備費用も大切であるが、工事中の影響やより安全、安心なルート、構造が最も大切なポイントであり高度な判断をお願いします。 ・人口減少等の費用対効果の面から整備費用は最小で考えるべきと思う。 ・道路は長期間に亘って使うものなので、整備費が高くても常に安全で早く目的地に行け、災害時にも止まることなく安心して使える道路を造った方が、沿線地域の人や道路を使う人は長期に亘り利益を受けるので国民全体で見れば得をすると思う。 ・限られたお金で最大限の効果を期待する。安く道路を作ることは大事だが、本来必要な機能は備えて欲しい。

1-11) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由回答:その他意見・要望)

- その他としては、大樹広尾間の道路整備方針、道路構造や付帯施設、運用に関する意見や要望が挙げられ、特に早期着工や整備への期待に関する要望が多く挙げられた。
- また、一方で事業及び行為に関する批判・否定的意見も挙げられた。
- これらに加え、帯広広尾自動車道の既開通区間や現道に関する意見や要望も挙げられた。

	主な意見
その他の意見、要望等	・案①以外では未来に残る道路と思われません。日高から札幌につながって始めて高速ネットワークがつながると思います。 ・案①別線案が最も効果的に政策目標を達成できる案である。 ・案①の全線専用道路ルートでなければこれまでの帯広広尾自動車道の大樹間の開通の意味がない。 ・案③が経済的に最良と考える。帯広-大樹間の交通量も少なく、大樹-広尾間を同じ規格で整備の必要は無い。 ・現在の国道は直線区間も多く走りやすいので、これを有効に活用する案が良いと思う。 ・全線開通してこそ意味があります。早急に完成することを望みます。 ・早期事業区間への昇格、早期整備に向けて着工すべき。 ・早期の整備を多くの住民が期待している事をもっとPRしても良いのではないかと。1日でも早い整備、開通を皆待っています。 ・大樹広尾間は1日でも早く開通する事を願う(開通が遅すぎる)。 ・本道路は当初計画どおり広尾まで通じるようにすべき。 ・大樹～広尾間の開通を心から期待しております。 ・国民、道民のために、国として市町村が安心安全に生活していくことを考えてください。整備は一年でも早くできることを望みます。 ・北海道は他県と比較して広大な面積のため、高速ネットワークの整備は不可欠です。一刻も早い整備をお願いいたします。 ・追越し車線の延長を長めにしてほしい。複数台が連なると遅い車を追越しきれない。追越し車線の設置個所を増やしてほしい。 ・野生動物が道路に上がってこないようにトンネル等の横断路を作してほしい。 ・高規格道路の本線上にPAを設置して欲しい。現在は開通している部分にトイレが無く、ICを降りて事務所のトイレしか使えないので。 ・制限速度を全区間にて80km/hにするべき。 ・財政状況から不要・不急と考える。今後ますます人口の減少が進む中こうした幹線道路の必要性が理解できない。 ・広尾自動車道が出来れば、便利ではあるが、大樹の町がさびれてしまうのではないかと心配だ。現在のままで十分だと思います。 ・更別～忠類大樹が開通して帯広への利便を大きく実感している。 ・大樹の市街地は1車線なのか2車線なのか解らないのでヒヤとした事がある。

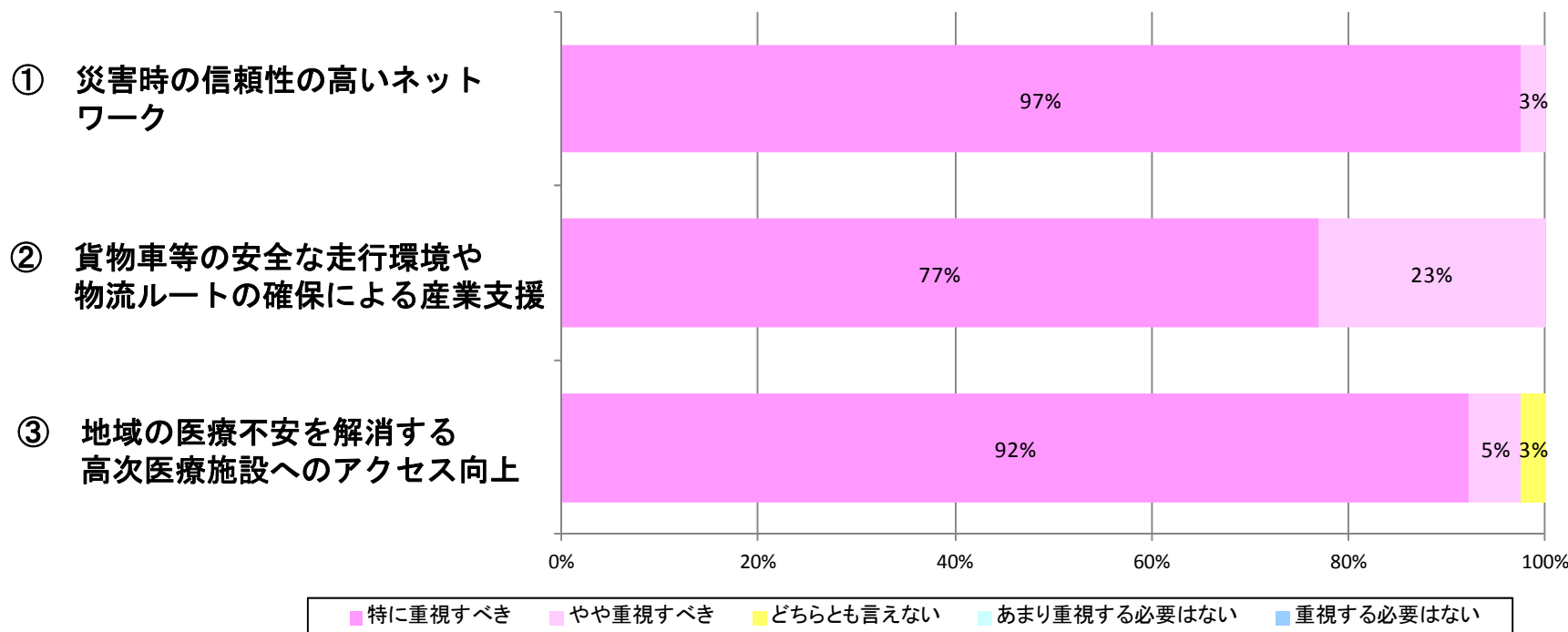
1-12) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(政策目標重視度)

○対策案の比較にあたって特に重視する事項については、すべての項目に対し約9～10割が重視すべきと回答。
○特に、「孤立回避」を重視すべきと感じている意見が多い。

■質問1. 対策案の比較にあたって、設定した政策目標をどの程度、重視すべきと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。(単数回答)

- ① 事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を有し、災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避できる道路
- ② 物流貨物車交通と生活交通の機能の分担により交通事故が減少し、安全・確実な産業を支援できる道路
- ③ 帯広市の医療施設などへの速達性や走行性の向上により、地域の医療不安を解消する道路



総回答数 39団体

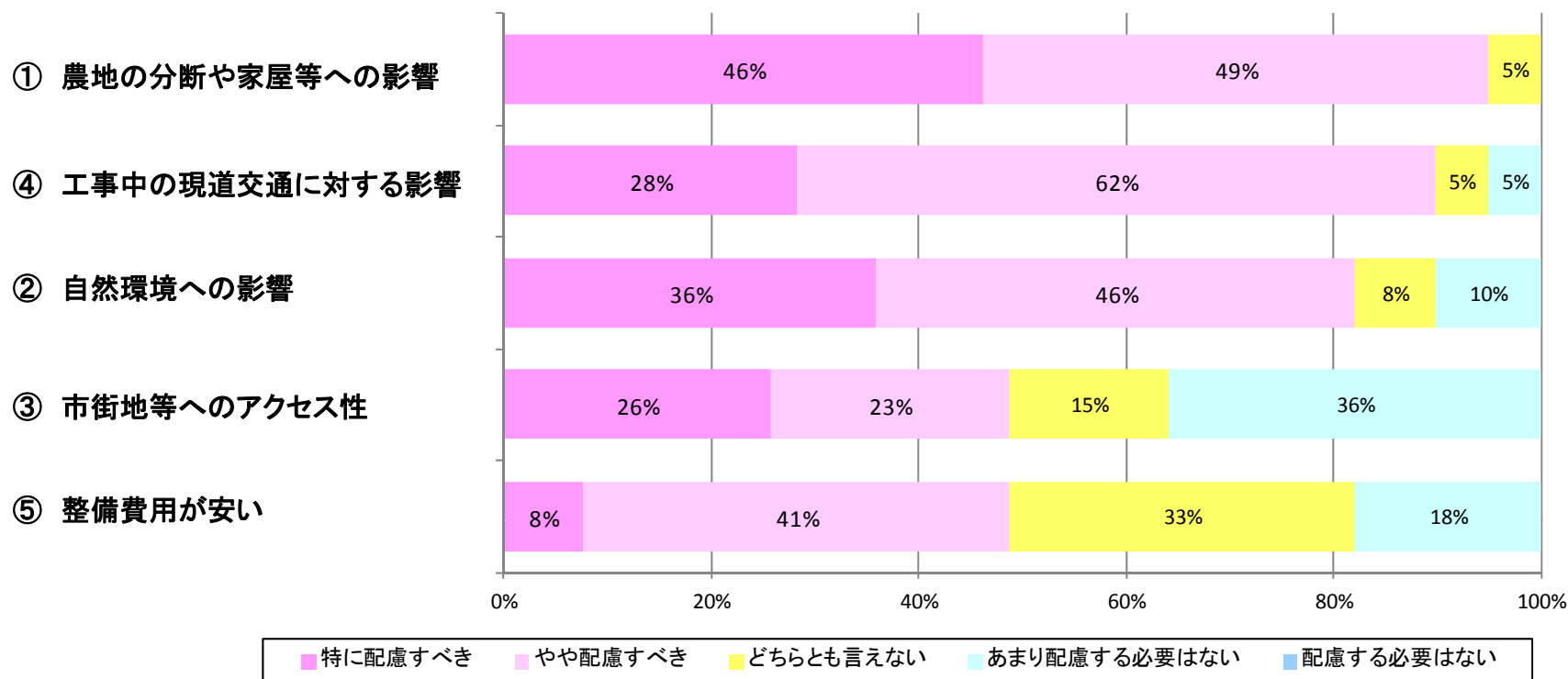
1-13) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(配慮すべき事項)

○対策案の整備にあたって配慮を必要とする事項については、「農地分断や家屋等への影響」、「工事中の現道交通」、「自然環境の配慮」の項目に対し約8～9割が配慮すべきと回答。

■質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」のの当てはまるもの1つをお選びください。(単数回答)

- ① 農地の分断や家屋等への影響
- ② 自然環境への影響
- ③ 市街地等へのアクセス性
- ④ 工事中の現道交通に対する影響
- ⑤ 整備費用が安い



総回答数 39団体

○大樹～広尾間が整備された場合の利活用方法・地域間連携の取り組みについては、自治体間の広域連携や広域観光への取り組み、学校間の連携等の回答内容が寄せられた。

■質問3. 貴団体の総合計画や将来ビジョン等にてらし、帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)が新たに整備された場合、現在考えられている、利活用方法や地域間連携の取り組みやがあればお聞かせ願います。

分類	主な回答内容
沿線自治体等	・近年は『フードバレーとかち』を旗印に掲げ、農林漁業の成長産業化や食の付加価値向上、地域の魅力発信に19市町村の連携のもと取り組んできた。また、今年6月に広域観光周遊ルートとして北海道で唯一指定を受けるなど、十勝の食や地域性を活かした体験・滞在型観光などの新たなビジネス機会が拡大しつつある。さらに、広域連携として、十勝19市町村による定住自立圏を形成し、所管面積全国最大の消防広域化、全国一広い医療圏での地域完結型・高度専門医療の提供体制の構築、バイオマス産業都市構想など、オール十勝での市町村連携が進んでいる。こうした動きの背景として、重要港湾である十勝港やとかち帯広空港、鉄道を結ぶ広域交通のネットワークの要として高規格幹線道路が重要な役割を果たしている。【帯広市】 ・広域観光の取り組みとして、浦河町、様似町、えりも町、広尾町で組織する「四町広域宣伝協議会」で、えりも・天馬とんがりロード(4町広域観光宣伝事業)を推進している。4町による台湾でのプロモーション事業も計画されている。今後、広尾町まで延伸されることで、本自動車道は、この地域に人を呼び込むための重要なインフラとなる。【浦河町・様似町・えりも町】 ・広尾町までの自動車道延伸により、とかち帯広空港を拠点とした道外からの集客増が見込まれ、また、天馬街道を経由する国道236号及び自動車道を利用する十勝圏域との交流人口が増加していることから、新たに世界ジオパークに認定されたアポイ岳ジオパークによる観光客誘致を進めるとともに、日高管内全体と十勝圏域・広尾町までを含めた広域的な観光に取り組んでいく。【様似町】
産業団体	・昨年町内の若手経営者ら民間の立場で「道の駅」設置に向けての調査を行い基本構想をまとめた。内容は観光、交流、産業、防災、減災を柱とした道の駅を「地域創生の拠点」とする内容で、将来高規格道路全線開通を見据えたものである。【広尾町商工会】 ・十勝圏二次交通活性化推進協議会という、十勝管内のバス、タクシー会社が協力して二次交通の充実化と利便性向上により、十勝観光のリピーター客をつかみ、観光交流人口の増加を目的とした協議会を立ち上げている。大樹～広尾間の整備による時間短縮効果で、バスやタクシーを使って多くの観光地へ回ってもらえると期待している。【十勝地区バス協会】
消防・医療	・来年4月から予定されている十勝の消防広域化により、消防、救急搬送、災害時等の連携が強化される。大樹～広尾間の整備は、更なる消防署間連携に寄与すると考える。【南十勝消防組合】
教育機関	・毎年帯広までバス遠足に行っているが、長距離移動の負担から年齢が上の園児のみの行事となっているが、大樹～広尾間の整備により、下のクラスの園児も行けないか検討している。【保育所】 ・学校の統廃合を進めているため、大樹～広尾間が整備されることで、集落からスクールバス等で通学する児童の負担が少なくなると期待している。また、統廃合後も残る小学校への毎日の給食運搬や部活の遠征時にも活用したい。【教育委員会】

1-15) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(自由回答)

○その他の意見要望としては、整備方針、早期着工・完成要望、道路構造、付帯施設等に関する声が寄せられた。

■質問4. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればお聞かせください。

分類	主な意見
沿線自治体等	・帯広・広尾自動車道(大樹～広尾間)については、日本最大の食料供給地であるオホーツク・十勝圏と十勝港へのアクセス強化、また太平洋岸の津波のリスクが高いと考えられる地域における耐災性向上のため、早期着手を要望する。【十勝総合振興局】 ・地域住民が快適かつ安全で安心して暮らせる環境づくりのために早期の事業化を要望する。【帯広市】 ・十勝港を中心とする関連事業の活性化や交通利便性の向上による地域間交流の活性化など、帯広・広尾自動車道の延伸に伴う恩恵は多大であり、早期の供用開始が望まれる。また、現在構想中である「道の駅」の建設との相乗効果も大きく期待されるため、一刻も早い整備への着工を要望する。【広尾町】 ・天馬街道(国道236号)へのスムーズなアクセス(ICの設置)を強く要望する。【浦河町】
産業団体	・帯広から広尾に繋がることで、本道路整備および活用の目的が達せられるものであるため、新規事業化を強く要望したい。十勝だけの物流、防災、医療、地域振興に止まらず、日高東部の地域の災害時、緊急搬送、観光振興に効果のあると考えられる。【帯広商工会議所】 ・帯広・広尾道自動車道は物流輸送道路でありトラックも多いが、トラックはそれなりのスピードでしか走れない。一般のドライバーのことを考えると、それなりの数の追い越し区間を整備することが必要。【十勝地区トラック協会】 ・十勝の農地の高い生産性を考えると、農地分断などへの影響については特に配慮して欲しい。【北海道農業協同組合帯広支所】 ・何より輸送効率化が求められるため、案①の作り方が望ましい。ただし、河川を渡河する橋梁の建設にあたっては、他の国道工事同様に工事時期等にも配慮をお願いしたい。【広尾漁業協同組合】
消防・医療	・救急搬送時の停車車両を追い越す際に、帯広広尾道の道路幅が狭い区間では接触を避けるため慎重にスピードを落として走行しているが、大樹～広尾間は安心して追い越せるよう、高規格道路の道路幅を広くして欲しい。また、救急車の車高が高いため風が強い区間では風よけがあるとよい。【日高東部消防組合】 ・今後、十勝圏のドクターヘリの運航開始によりさらに利用が増えることが予想されるため、帯広・広尾自動車道の整備にあたっては、ドクターヘリの着陸場所等も意識した整備をお願いしたい。【帯広厚生病院】
教育機関	・大樹町には耳鼻科・皮膚科・婦人科が無く、やむなく帯広への通院をしている状況であるため、園児の親からは、帯広・広尾自動車道があると大変助かるという声がある。【保育園】

2. 地域意見を踏まえた対応方針（案）

2-1) 路線の対策案の考え方

- 第1回地域意見聴取結果を踏まえ、政策目標を設定。
- 政策目標の達成に必要な道路機能、配慮すべき事項等を踏まえ3つの対策案を設定。

政策目標

災害時の信頼性の高い
ネットワークの構築

貨物車等の安全な走行環境や物
流ルート確保による産業支援

地域の医療不安を解消する高次医
療施設へのアクセス向上

政策目標達成に 必要な機能

- ・事故や冬期災害等緊急時の
路線の多重性を確保
- ・被災時の地域の孤立を回避

- ・農水産品等の物流貨物車交通と
生活交通の機能分担
- ・十勝港への安全・確実なアクセス
- ・冬期の走行環境の向上

- ・走行速度を担保し、速達性を向上
- ・安定走行により搬送患者への負担
を軽減

コントロールポイント

学校や病院などの公共施設や史跡等のコントロールポイントに配慮

その他の 配慮すべき事項

- ・地域への影響
- ・工事中の影響

- ・環境への影響
- ・経済性

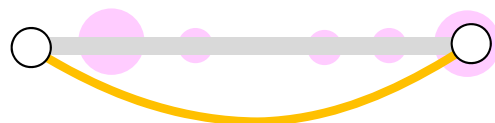
- ・市街地等へのアクセス

3つの対策案と 整備イメージ

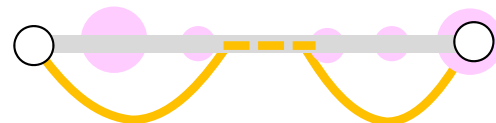
凡例

- : 市街地・集落
- : 現道
- : 別線整備
- - : 現道整備

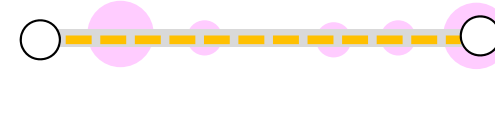
全区間で新しい道路を整備する
案



現在の国道の一部を有効活用
する案

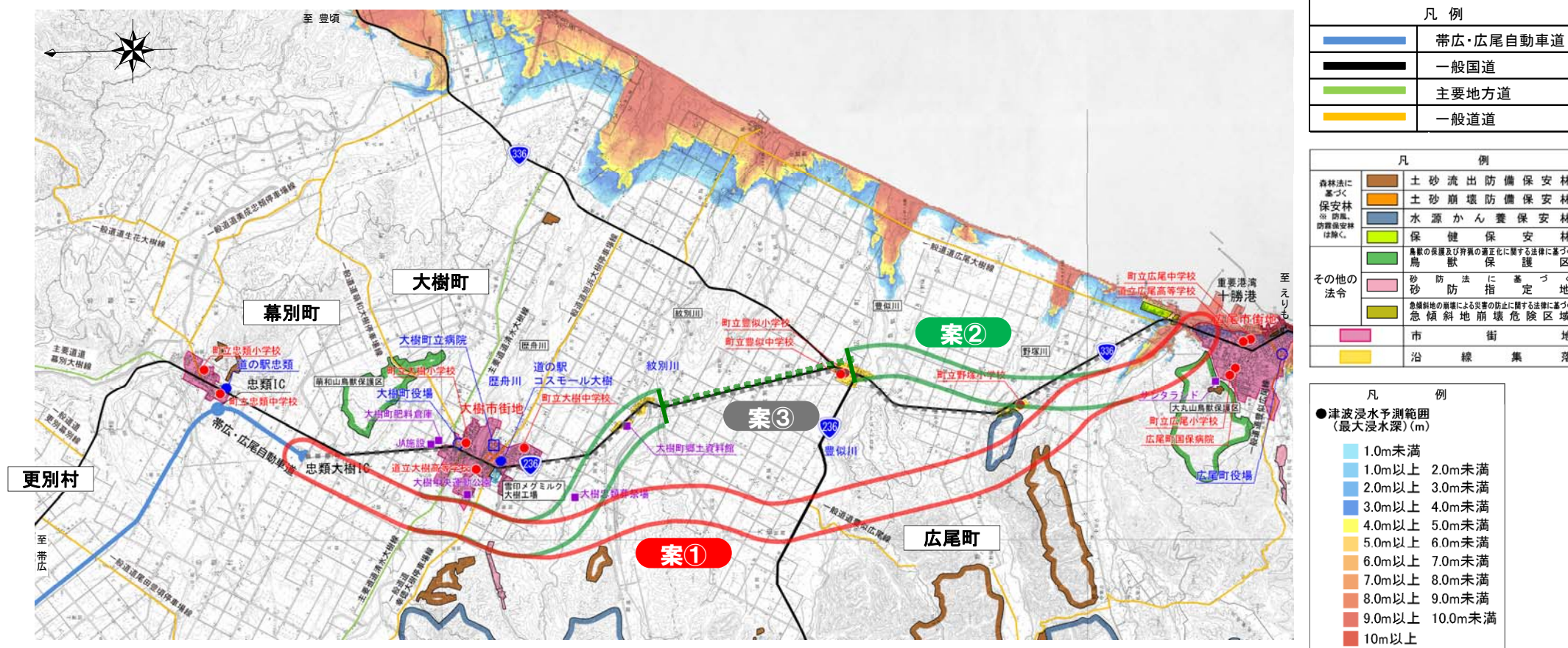


現在の国道を活用し、安全性や
走行性を改善する案



2-2) 対策案の概要

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



■対策概要

【案①】別線案

山側を通過することで、農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案

【案②】別線＋一部現道改良案

現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案

【案③】現道改良案

現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案

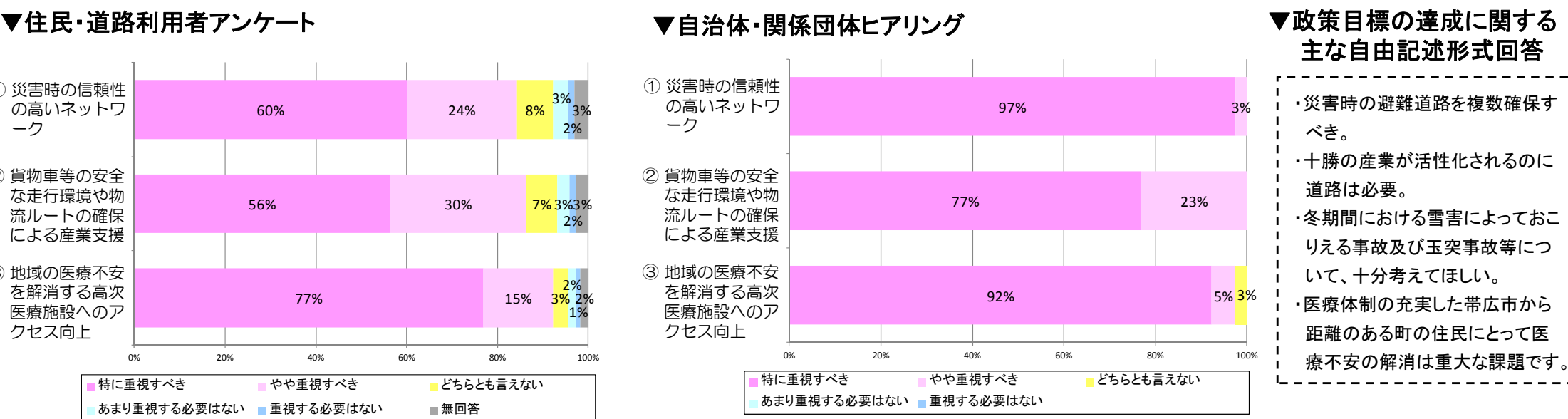
2-3) 対策案の比較評価

対策案 の考え方			【案①】別線案		【案②】別線＋一部現道改良案		【案③】現道改良案	
			山側を通過することで農地の斜め分断や土工 バランス等に配慮し、全区間において別線で 整備する案		現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、 走行性の高い区間で一部現道改良を行う案		現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性 を改善する案	
整備イメージ								
凡例			——：現道 —：案①整備箇所 —：案②整備箇所 ：案③整備箇所 —：別線区間					
区間延長			約28km（自動車専用道路）		約29km（自動車専用道路＋現道改良）		約28km（現道改良）	
政策目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築	事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性	多重性を確保できる	◎	別線区間は多重性を確保できるが、現道改良区間はできない	○	多重性を確保できない	×
		大規模災害時の避難や救援、地域の孤立	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	◎	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	◎	災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある	×
	貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援	交通事故の安全性	通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる 動物等との衝突事故も防止できる	◎	別線区間では大きく向上でき、現道改良区間は交通安全対策が必要	○	現道の交通安全対策により向上する	△
		冬期の走行環境	既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる	◎	既存林等の活用による地吹雪対策により向上できる	○	地吹雪対策が必要	△
	地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	高次医療施設への所要時間	所要時間を最も短縮できる	◎	所要時間を短縮できる	○	所要時間を短縮できない	×
		搬送患者への負担	安定走行により大きく負担を軽減できる	◎	安定走行により負担を軽減できる	○	負担軽減は見込めない	×
配慮すべき事項	地域への影響	優良農地の分断や家屋への影響	山側を通過するため案②に比べ小さい	○	平地部を通過するため案①に比べ大きい	△	市街地での拡幅に伴う影響はあるが、全体の影響は小さい	◎
	環境への影響	土地の改変や自然環境への影響	比較的大きくなる可能性がある	△	別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい	○	比較的小さい	◎
	市街地等へのアクセス	市街地や沿線集落十勝港へのアクセス性	日高方面へのアクセスが良い 沿線集落へのアクセスは限定	○	沿線集落へのアクセスが良い	○	現在と変わらない	○
	工事中的の影響	工事中的の現道交通への影響と効果の発現	工事中的の影響は少ない 開通による効果発現はIC毎	◎	現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要 別線区間はIC毎、現道改良区間は整備したところから効果発現が見込まれる	○	工事中的の影響は最も大きく通行規制が必要 現在の国道を改良するため、整備したところから効果発現が見込まれる	△
	経済性	工事内容と経済性	区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良いため案②と同程度	△	現道改良区間のコストは抑えられるが、不足土が多いため案①と同程度	△	現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる	◎
約350～380億円				約360～390億円		約90～110億円		

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。
政策目標 : 【凡例】◎：達成できる ○：概ね達成できる △：部分的に達成できる ×：達成できない
配慮すべき事項 : 【凡例】◎：影響小さい ○：影響比較的小さい △：他案に比べ劣る —：現在と変わらない

○ 政策目標の重視度に関しては、すべての政策目標に対し、住民・道路利用者アンケートでは8割以上、自治体・関係団体ヒアリングでは9割以上が「特に重視すべき」、「重視すべき」と回答。

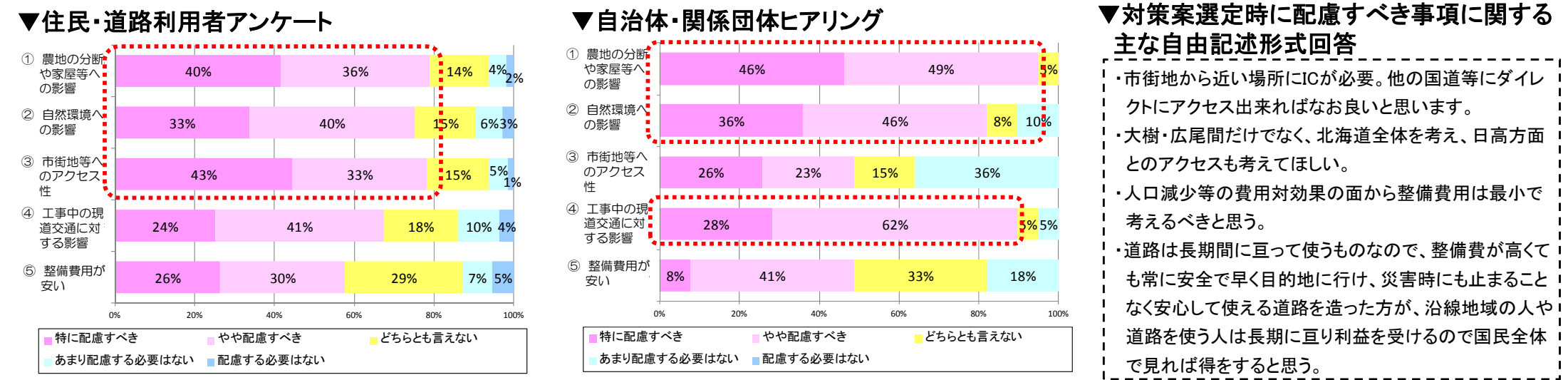
○ 自由記述形式回答においても、政策目標の達成を重視する意見が多数寄せられた。



			【案①】別線案	【案②】別線＋一部現道改良案	【案③】現道改良案	
政策目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築	事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性	多重性を確保できる ◎	別線区間は多重性を確保できるが、現道改良区間はできない ○	多重性を確保できない ○	×
		大規模災害時の避難や救援、地域の孤立	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる ◎	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる ◎	災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある ○	×
	貨物車等の安全な走行環境や物流ルート確保による産業支援	交通事故の安全性	通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる ◎	別線区間では大きく向上でき、現道改良区間は交通安全対策が必要 ○	現道の交通安全対策により向上する ○	△
		冬期の走行環境	既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる ◎	既存林等の活用による地吹雪対策により向上できる ○	地吹雪対策が必要 ○	△
	地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	高次医療施設への所要時間	所要時間を最も短縮できる ◎	所要時間を短縮できる ○	所要時間を短縮できない ○	×
		搬送患者への負担	安定走行により大きく負担を軽減できる ◎	安定走行により負担を軽減できる ○	負担軽減は見込めない ○	×

○対策案選定時に配慮すべき事項に関しては、住民・道路利用者アンケートでは「市街地等へのアクセス性」に対して、自治体・関係団体ヒアリングでは「農地分断や家屋等への影響」「工事中の現道交通への影響」「自然環境への影響」に対して、「特に配慮が必要」「配慮が必要」と回答。

○自由記述形式回答においては、「市街地等へのアクセス」、「経済性」に関する補足的な意見が寄せられた。



			【案①】別線案	【案②】別線＋一部現道改良案	【案③】現道改良案
配慮すべき事項	地域への影響	優良農地の分断や家屋への影響	山側を通過するため案②に比べ小さい	平地部を通過するため案①に比べ大きい	市街地での拡幅に伴う影響はあるが、全体の影響は小さい
	環境への影響	土地の改変や自然環境への影響	比較的大きくなる可能性がある	別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい	比較的小さい
	市街地等へのアクセス	市街地や沿線集落、十勝港へのアクセス性	日高方面へのアクセスが良い 沿線集落へのアクセスは限定	沿線集落へのアクセスが良い	現在と変わらない
	工事中的影響	工事中の現道交通への影響と効果の発現	工事中的影響は少ない 開通による効果発現はIC毎	現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要 別線区間はIC毎、現道改良区間は整備したところから効果発現が見込まれる	工事中的影響は最も大きく通行規制が必要 現在の国道を改良するため、整備したところから効果発現が見込まれる
	経済性	工事内容と経済性	区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良いため、案②と同程度	現道改良区間のコストは抑えられるが、不足土が多いため案①と同程度	現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる
			約350～380億円	約360～390億円	約90～110億円

2-6) 対応方針(原案)の検討

対策案の考え方			【案①】別線案	【案②】別線＋一部現道改良案	【案③】現道改良案	
			山側を通過することで農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案	現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案	現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案	
整備イメージ						
凡例			—：現道 —：案①整備箇所 —：案②整備箇所 ：案③整備箇所 —：別線区間			
区間延長			約28km（自動車専用道路）		約28km（現道改良）	
政策目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築	事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性	多重性を確保できる	◎ 別線区間は多重性を確保できるが、現道改良区間はできない	○ 多重性を確保できない	×
		大規模災害時の避難や救援、地域の孤立	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	◎ 避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	◎ 災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある	×
	貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援	交通事故の安全性	通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる動物等との衝突事故も防止できる	◎ 別線区間では大きく向上でき、現道改良区間は交通安全対策が必要	○ 現道の交通安全対策により向上する	△
		冬期の走行環境	既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる	◎ 既存林等の活用による地吹雪対策により向上できる	○ 地吹雪対策が必要	△
	地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	高次医療施設への所要時間	所要時間を最も短縮できる	◎ 所要時間を短縮できる	○ 所要時間を短縮できない	×
		搬送患者への負担	安定走行により大きく負担を軽減できる	◎ 安定走行により負担を軽減できる	○ 負担軽減は見込めない	×
配慮すべき事項	地域への影響	優良農地の分断や家屋への影響	山側を通過するため案②に比べ小さい	○ 平地部を通過するため案①に比べ大きい	△ 市街地での拡幅に伴う影響はあるが、全体の影響は小さい	◎
	環境への影響	土地の改変や自然環境への影響	比較的大きくなる可能性がある	△ 別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい	○ 比較的小さい	◎
	市街地等へのアクセス	市街地や沿線集落、十勝港へのアクセス性	日高方面へのアクセスが良い沿線集落へのアクセスは限定	○ 沿線集落へのアクセスが良い	○ 現在と変わらない	○
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響と効果の発現	工事中の影響は少ない 開通による効果発現はIC毎	◎ 現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要 別線区間はIC毎、現道改良区間は整備したところから効果発現が見込まれる	○ 工事中の影響は最も大きく通行規制が必要 現在の国道を改良するため、整備したところから効果発現が見込まれる	△
	経済性	工事内容と経済性	区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良いため、案②と同程度 約350～380億円	△ 現道改良区間のコストは抑えられるが、不足土が多いため案①と同程度 約360～390億円	△ 現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる 約90～110億円	◎

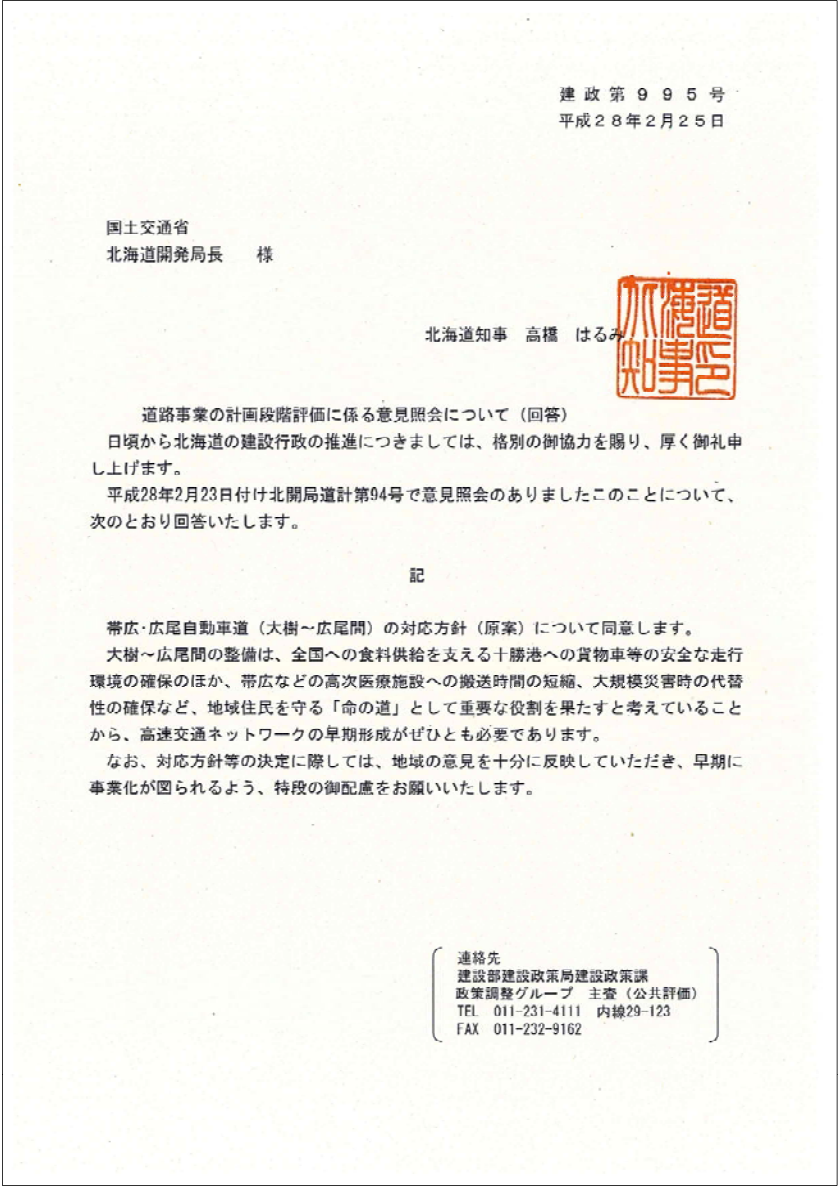
対応方針(案)

比較評価の結果、対策方針案(原案)については最も政策目標を達成でき、かつ道路計画にあたって地域が懸念している事項にも総合的に配慮できる

【案①】別線案を対応方針(原案)とする。

▼自治体意見照会の回答（北海道知事）

▼意見照会の回答（要旨）



自治体名	意見
北海道	○帯広・広尾自動車道（大樹～広尾間）の対応方針（原案）について同意します。 ○大樹～広尾間の整備は、全国への食料供給を支える十勝港への貨物車等の安全な走行環境の確保のほか、帯広などの高次医療施設への搬送時間の短縮、大規模災害時の代替性の確保など、地域住民を守る「命の道」として重要な役割を果たすと考えていることから、高速交通ネットワークの早期形成がぜひとも必要であります。 ○なお、対応方針等の決定に際しては、地域の意見を十分に反映していただき、早期に事業化が図られるよう、特段の御配慮をお願いいたします。

2-8) 対応方針(案)

1. 道路整備の必要性

【課題】

- 当該地域は、大規模災害時の避難および支援物資輸送路が脆弱、全国への食糧供給を支える十勝港アクセスルートの安全性・確実性の低下、救急医療・高次医療サービスの享受が困難等が課題となっている。
- 課題解決のためには、安全で信頼性の高い道路整備が望まれている。



【政策目標】

- 政策目標を実現できる道路整備を検討
- ◇ 災害時の信頼性の高いネットワークの構築
 - ◇ 貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援
 - ◇ 地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上

2. 対応方針(案)

【案①】別線案 を対応方針(案)とする。

【理由】

- 【案①】別線案は、【案②】や【案③】に比べ、災害時の信頼性の高いネットワークの構築、貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援、地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上というすべての政策目標面で優れている。
- 地域意見聴取結果においては、「地域への影響」、「環境への配慮」、「市街地等へのアクセス」、「工事中の影響」への配慮を望む意見が多く挙げられているが、【案①】はこれらの事項に対して総合的に配慮できるため地域のニーズにも応えられる。
- また、地域の将来ビジョンや地域連携の取り組みである、フードバレーとかちや地方創生の拠点となる道の駅の設置、十勝の消防広域化などについても支援できる。
- インターチェンジの詳細な位置や構造については、地域意見聴取の結果を踏まえ、災害時の避難・救援活動の円滑性、市街地や主要な幹線道路、物流拠点との連絡性、観光交流の促進等に寄与する配置とする。

3. その他

- 今後の詳細な道路構造等の検討にあたっては、沿道地域の生活環境への影響、自然環境の保全、コスト縮減等に配慮しながら計画を進める。

至 豊頃

幕別町

忠類IC

忠類大樹IC

大樹町

大樹中学校

大樹小学校

大樹町立図書館

大樹高等学校

雷印メグミルク大樹工場

豊頃川

豊頃中学校

豊頃小学校

野塚川

野塚小学校

広尾町

重要港湾
十勝港

広尾中学校

広尾高等学校

広尾小学校

大丸山鳥獣保護区

至 帯広

凡 例

● 津波浸水予測範囲
(最大浸水深)(m)

1.0m未満	
1.0m以上	2.0m未満
2.0m以上	3.0m未満
3.0m以上	4.0m未満
4.0m以上	5.0m未満
5.0m以上	6.0m未満
6.0m以上	7.0m未満
7.0m以上	8.0m未満
8.0m以上	9.0m未満
9.0m以上	10.0m未満
10m以上	